

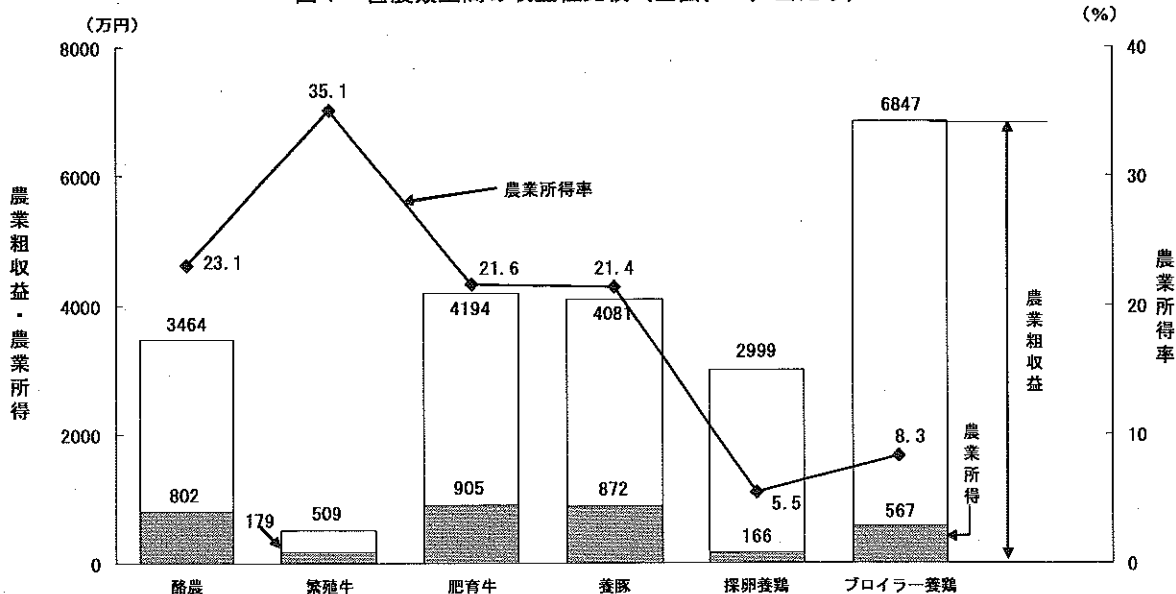
I 調査結果の概要

1 全国平均値

(1) 平成16年の酪農、肉用牛（繁殖牛・肥育牛別）、養豚、採卵養鶏及びブロイラー養鶏経営の1戸当たり農業粗収益は、ブロイラー養鶏経営が6,847万円で最も高く、次いで肥育牛経営が4,194万円、養豚経営が4,081万円、酪農経営が3,464万円、採卵養鶏経営が2,999万円、繁殖牛経営が509万円となっている。（図1参照）

(2) 一方、農業粗収益から農業経営費を差し引いた1戸当たりの農業所得でみると、肥育牛経営が905万円で最も高く、次いで養豚経営が872万円、酪農経営が802万円、ブロイラー養鶏経営が567万円、繁殖牛経営が179万円、採卵養鶏経営が166万円となり、採卵養鶏及びブロイラー養鶏経営の農業所得率（農業粗収益に占める農業所得の割合）は低くなっている。（図1参照）

図1 営農類型間の収益性比較（全国、一戸当たり）



(3) 次に、1戸当たり農業経営費の内訳をみると、肥育牛経営は動物費が1,566万円と最も高く、農業経営費に占める割合が約5割となっているが、他の営農類型では、飼料費が最も高く、養豚、採卵養鶏及びブロイラー養鶏経営においては農業経営費に占める割合が6割を超えている。(図2、表1参照)

図2 営農類型間の農業経営費の構成割合比較(全国、一戸当たり)

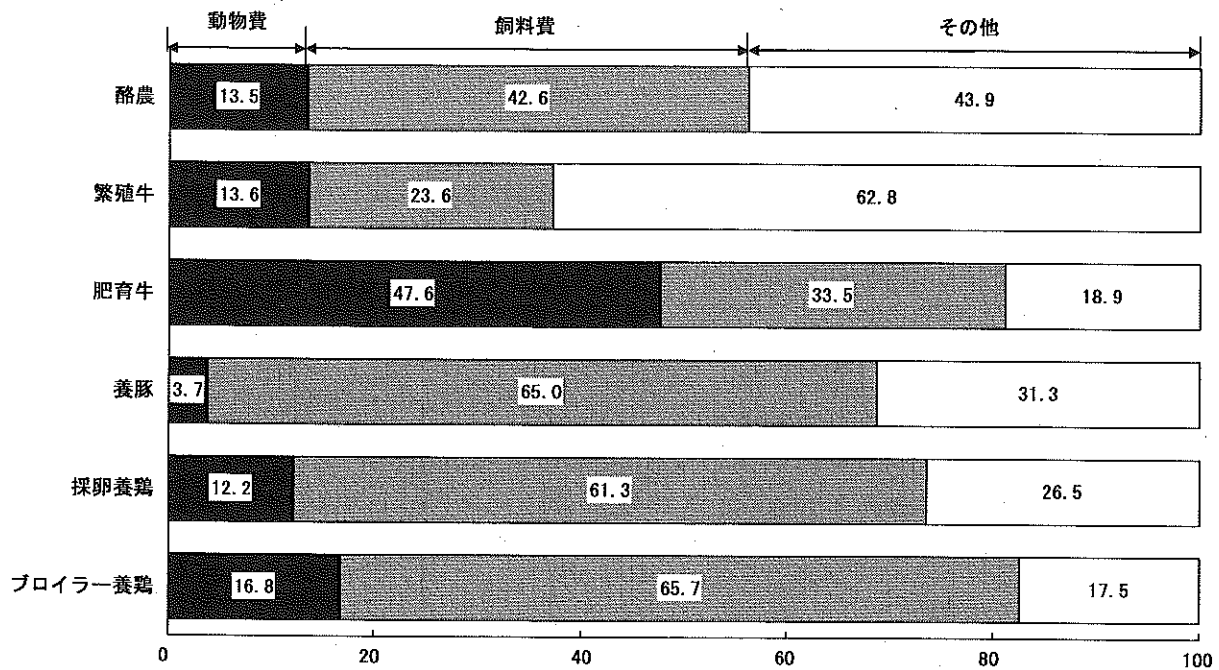


表1 各営農類型の農業経営費(全国、一戸当たり)

区分	単位：万円					
	酪農	繁殖牛	肥育牛	養豚	採卵養鶏	ブロイラー養鶏
農業経営費	2 663	330	3 289	3 209	2 833	6 280
動物費	359	45	1 566	119	347	1 058
飼料費	1 134	78	1 101	2 086	1 736	4 129
その他	1 170	207	622	1 004	750	1 093

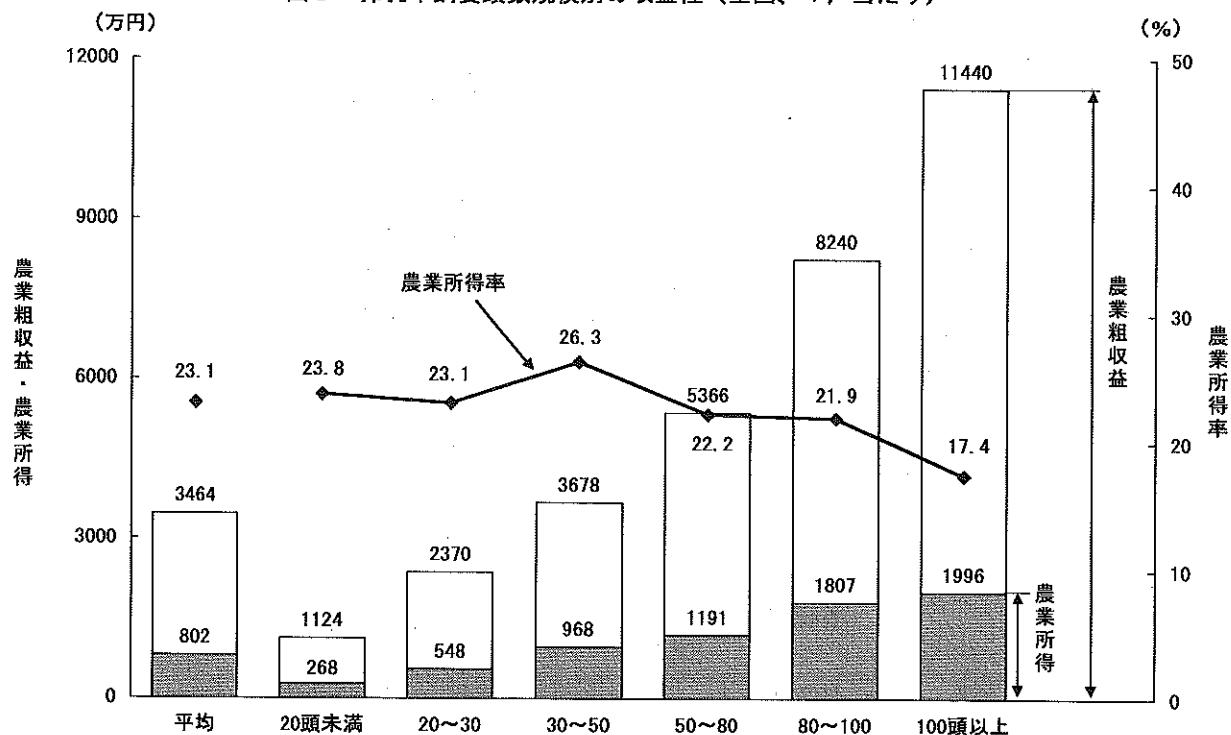
2 飼養頭数規模別にみた経営の概要

(1) 酪農経営(図3参照)

酪農経営の1戸当たり農業所得を搾乳牛飼養頭数規模別にみると、30頭以上の各階層において平均の802万円を上回っており、100頭以上の階層では1,996万円となっている。

また、農業所得率をみると、100頭未満の階層では21.9~26.3%と、20%以上であるのに対し、100頭以上の階層においては17.4%と他の階層と比較して低くなっている。これは、大規模経営においては、搾乳、飼養管理などの作業の効率化等を目的とした機械・設備等の導入により施設関係の経費が高くなるほか、農業雇用労賃や作業委託料も高い水準となり、経営費が高くなることによる。

図3 搾乳牛飼養頭数規模別の収益性(全国、1戸当たり)

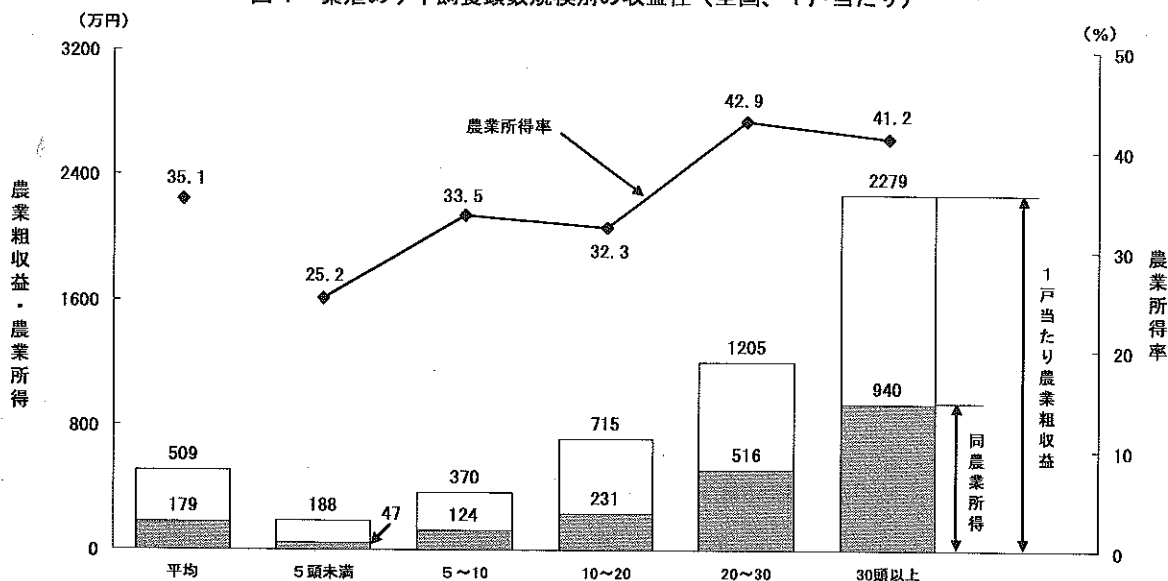


(2) 繁殖牛経営(図4参照)

繁殖牛経営の1戸当たり農業所得を繁殖めす牛飼養頭数規模別にみると、10頭以上の各階層において平均の179万円を上回っており、30頭以上の階層では940万円となっている。

また、農業所得率をみると、概ね規模の拡大に伴い上昇する傾向を示している。これは、繁殖牛経営では、設備・機械等に係る経費が5頭未満の階層では32%を占めているのに対し、30頭以上の階層では15%程度と低くなっており、規模拡大によるスケールメリット等経営の効率化が図られていることによる。

図4 繁殖めす牛飼養頭数規模別の収益性（全国、1戸当たり）

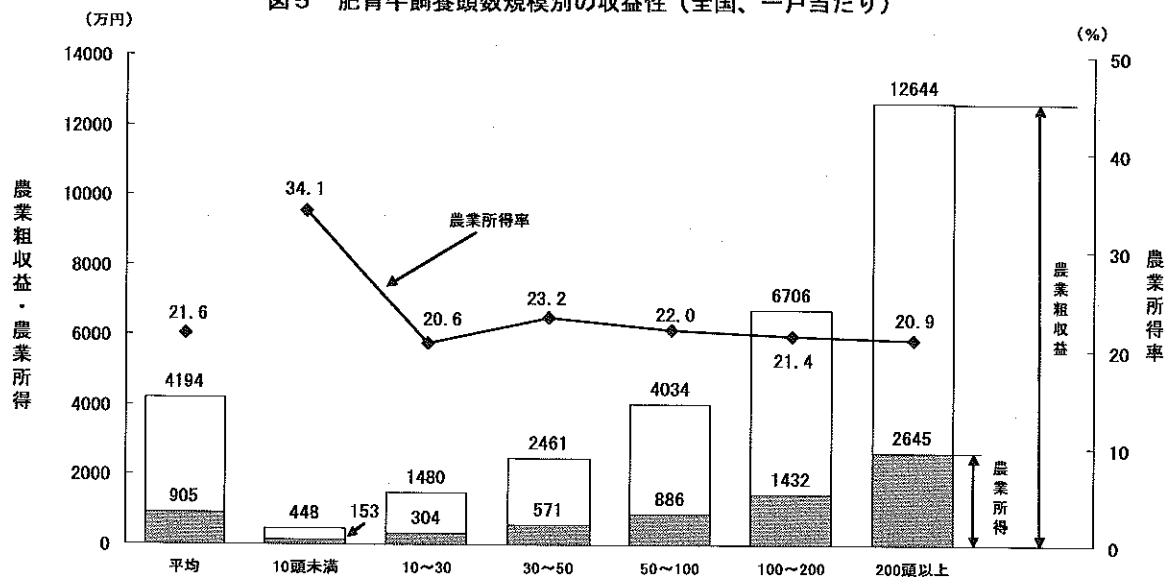


(3) 肥育牛経営(図5参照)

ア 肥育牛経営の1戸当たり農業所得を肥育牛飼養頭数規模別にみると、100頭以上の各階層において平均の905万円を上回っており、200頭以上の階層では2,645万円となっている。

また、農業所得率をみると、10頭未満の階層は34.1%であるが、10頭以上の階層は20.6~23.2%とほぼ同水準となっている。これは、大規模階層ほど乳用種の割合が高まることから、1頭当たりの販売金額は低くなっているが、一方では、肥育用もと畜の価格も低いことから、経営費が抑えられていることによる。

図5 肥育牛飼養頭数規模別の収益性（全国、一戸当たり）



イ 肥育牛経営には「肉専用種を主とする経営」及び「乳用種を主とする経営」があり、肥育牛経営をこれらのタイプ別にみると、

① 月平均肥育牛飼養頭数は、肉専用種を主とする経営が64頭であるのに対し、乳用種を主とする経営が150頭と、乳用種を主とする経営が大規模

② 肥育牛1頭当たり所得は、肉専用種を主とする経営で19万円、乳用種を主とする経営で7万円と、肉専用種を主とする経営が高い

など、両タイプには違いがあり、このため、1頭当たりの所得は肉専用種を主とする経営が高いが、1戸当たりの所得は乳用種を主とする経営が高くなっている。(表2参照)

表2 肥育牛経営における肉専用種を主とする経営と乳用種を主とする経営の比較(全国)

	月平均肥育牛飼養頭数	肥育牛販売頭数	部門粗収益		部門経営費		部門所得	
			1戸当たり	肥育牛1頭当たり	1戸当たり	肥育牛1頭当たり	1戸当たり	肥育牛1頭当たり
肉専用種を主とする経営	64	40	3701	93	2943	74	758	19
乳用種を主とする経営	150	132	4525	34	3610	27	915	7

(4) 養豚経営(図6参照)

養豚経営の1戸当たり農業所得を肥育豚飼養頭数規模別にみると、1,000頭以上の各階層において平均の872万円を上回っており、2,000頭以上の階層では2,994万円となっている。

また、農業所得率をみると、2,000頭未満の階層まではやや上昇する傾向にあるが、2,000頭以上階層で低下している。これは、飼養管理にかなりの労働時間を要することから、雇用労働の割合が高く、経営費が高くなっていることによる。

